

【目的】本研究は、現代の若者の「食べる」ことに対する意識を多角的に捉え、食の自立を形成するための課題を、ジェンダー観と関連させ明らかにすることを目的とする。また、学校における「食べる」ことの学習は家庭科を中心に行われている現状を考え、家庭科における「食べる」ことの学習のあり方を再考し、精神的・身体的に健康な食生活を送るためのカリキュラムも試案したい。

【方法】短期大学生を中心とした、現代の若者の「食べる」ことに関する意識の分析を行う。方法として、食品に関する知識、調理に関する知識・技術、食生活スタイルおよび心身状態、食に関する学習状況、ジェンダー観などに関する項目で構成される質問紙調査を中心に、インタビュー等も合わせて分析する。

【結果】現代の多様化された若者の「食べる」ことおよび食生活スタイルについて、ジェンダー観を分析の視点とすることにより、食の自立を形成するための課題が、より明確になるであろうと考えられる。